

加茂家について

加茂家の起源は安土桃山時代（1568～1603年）にまで遡ります。加茂家は庄屋としてこの地域で農業に関する定めが確実に守られるようにするとともに、農作業を調整していました。当時の検地によると、加茂家は現在の静岡県西部の大半を含む広い地域を監督していました。江戸時代（1603～1867年）の末には加茂家はその地域で最も有力な地主で、掛川藩の地方御用達として金融業務を江戸幕府公認で行うようになります。加茂家は日本の歴史上重要ないくつかの資料を今も所有しており、その中には1867年に江戸時代が終わるまで日本を統治した徳川家の初代将軍徳川家康（1542～1616年）からの書状もあります。

1868年の明治維新によって江戸幕府が天皇に政権を返上すると、幕府が大名に領地を割り当てる制度は消滅し、加茂家は所有していた資産の多くを失いました。第二次世界大戦の終戦までに加茂家は植物の育種と園芸に力を入れるようになり、戦後、残っていた土地を加茂荘花鳥園に発展させました。